

結果は日々の中にある

多くの部活が全国大会に出場

今年の夏休みも多くの部活動が活躍した。今号では、全国大会に出場して優秀な成績を収めた鉄道研究部、映画研究部、将棋部、囲碁(個人)で出場した生徒の喜びの声をお届けする。

鉄道研究部

8月19日(金)から21日(日)にかけて行われた第14回全国高等学校鉄道模型コンテストに鉄道研究部が出場し、努力賞、審査員特別賞(フアンタジー)、西武鉄道賞を受賞した。この大会は全国の高校が出場する高校生の大会で、全国最大規模の鉄道模型の大会でもある。錦城は4回目の出場であり、3部門での受賞は錦城史上初の快挙だ。今回は「水没都市ポストアポカリプス」という作品を作成した。「ポストアポカリプス」とは、SFの映画や小説の言葉で「崩壊後の都市」を意味する。作品は水没後の都市をテーマに、水中を鉄道が走る幻想的なジオラマとなった。制作チームであるアイコン芽依さん(2M)は「少人数での制作でしたが、各々の得意分野を活かし頑張って作業を進めました。それを目に見えて評価してもらい、嬉しいです」と語った。作品の段ごたえについては「構想の段階から賞を取れる自信があり、出来映えも120%だと言える完成度に仕上がったと思います。見れば見るほどこだわりが詰まっている。作品は夏休み中の3週間ほどで仕上げ、制作人数は3人だという。作品の搬入日に仕上げがうまくいかず、直前まで作り直すこともあったものの、練習については「自分たちで課題を見つけて、どのように取り組めば良いかを考えることができた」と話した。



細部まで作りこまれた幻想的なジオラマ



製作のすべてが楽しかったです



実際のジオラマ 学校HPにも掲載中

れも含めて全てが楽しかったです」と語ったアイコンさん。「これからも他にないような作品を作っていきたいです」と話した。

映画研究部

7月27日(水)に第69回全日本学生映画コンテストが行われた。映画研究部は2年生が創作テレビドラマ部門、3年生が創作テレビドキュメント部門に出場し、両部門で優良賞(創作テレビドラマ部門は全国トップ5、創作テレビドキュメント部門は全国トップ10)を受賞した。創作テレビドラマ部門の作品「誰にでも活躍できる場所がある」は、部長の武志さん(2G)は「作品を自分のイメージとテーマに近づけるように制作しました」と話す。大会から学んだことや今回制作した作品の反省を聞くと「大会で見た他校の作品見事優勝を飾った。また、例年よりも自分自身を主将として全勝した」と話した。



いい作品作りのために 真剣に撮影する



硫黄岳山頂で 記念撮影

大きな挑戦から学ぶ

有志クイズ研究会

8月18日(木)、有志クイズ研究会は、立川市にある柴崎学習館で都立国分寺高校クイズ研究会と交流会を行った。クイズ大会「らめん杯」を受賞し、文部科学大臣賞を受けた。今大会は川上さんにあって高校生で最後の大会。優勝した心境を川上さんは「コロナ禍の中で大会を開催してくれた運営の方々にはとても感謝している話したうえで、地元東京で開催され、その中で立派な成績を残せて非常にうれしかったです」と語った。団体戦優勝の要因を聞くと「一緒に戦ったとき仲間がいたからです」と話す。団体戦はチーム内での雰囲気や勝敗を左右すると思ううえで、大会までにインターネットを通じてチームメイトと何度か対して親睦を深めたそう。試合当日の心境を「副将、三将が安定した勝利をしてとても頼もしく感じましたが、チームの主将という立場にプレッシャーもありました」と話した。その中で「試合の勝敗を有意義な時間でした」と話した。小沼さんと平澤さんは「私たちが抜けた後、女子部員が1人しかなくなってしまうので、ぜひ女子部員に入ってもらいたいです。将棋は指せば指すほど強くなるのが出てきます。強くなると、新しいチームでまた来年も出場してほしいです」と後輩にメッセージを送った。



学習館前でパチリ

将棋部

将棋部は8月3日(水)と4日(木)に行われた全国高等学校総合文化祭将棋部門に出場。全国大会は初めての場でも緊張しましたが「話したのは1年生の渡辺千紗さん(1E)。副将を務めた平澤さん(3C)は「様々な戦法の人と対戦できたので、いい経験になったと思います」と語る。主将の小沼弥生さん(3I)は「最後の大会だったので今までの成果を発揮できるように望むことが出来ました」と試合を振り返った。渡辺さんは「対戦相手の中には、自己流の指し方の選手もいたので、攻め方に苦労しました。でも、感想戦の時に直すところを指摘してもらったり、戦法を教えてもらったりと、とても有意義な時間でした」と話した。小沼さんと平澤さんは「私たちが抜けた後、女子部員が1人しかなくなってしまうので、ぜひ女子部員に入ってもらいたいです。将棋は指せば指すほど強くなるのが出てきます。強くなると、新しいチームでまた来年も出場してほしいです」と後輩にメッセージを送った。

夏の大会で得たものは

野球部

7月10日(日)から31日(日)に行われた「第104回全国高等学校野球選手権大会(西東京大会)」で、野球部は4回戦で桜美林高校に惜敗した。熊倉誠希さん(3G)は「目標としていたベスト8になれず残念でしたが、昨夏ベスト8だった伯江高校に勝ったのは誇れる経験になりました」と大会を振り返る。野球部に所属して得たものを聞く。「試合で会う他校の生徒や先生、学校見学に来た中学生や保護者の方に対する接し方を学べました。目上の人への態度は社会に出て他人に劣らないと思います」と話した。最後に錦城生へ「試合での吹奏楽部やダンス部の応援、友人の励みの言葉がとて力になりました。本当にありがとうございました。」と感謝を述べる。



錦城生へ感謝を述べる

吹奏楽部

8月10日(水)から15日(月)にかけて開催された東京都高等学校吹奏楽コンクールで、吹奏楽部は銀賞を受賞した。部長の丸谷彩萌さん(2E)と副部長の廣澤沙季さん(2D)は、大会の結果について「去年の大会では銅賞だったので、一つ上の賞を取ることで、成長を感じて嬉しかったです」と語る。大会の練習については「自分たちで課題を見つけて、どのように取り組めば良いかを考えることができた」と話した。今年には文化祭での演奏会や、12月にルネ小平で開催されるクリスマスコンサートを開催する。是非吹奏楽部の演奏を聴きに行ってみてほしいだろうか。(紫・光)



去年からの成長を語る

1年生部員急募!

茶道同好会は現在3年生6人、2年生1人で活動中だ。同好会の魅力を部長の伊東花純さん(3H)に聞いた。茶道同好会の魅力は丁寧な物事を行う習慣がつくこと。「厳しい礼作法や物事の順序を正しく守り、精神統一をすることで一挙一動に意識をもって行うことが出来ます」と語る。1年生には「今からでも新しいことに挑戦して『楽しい』という経験を持ってほしいです」と話した。また、茶道同好会では現在、1年生部員の在籍が0人であり、絶賛募集中。文化祭では6階茶道室で体験会を行う予定で、自分でお茶を点て、飲むことが出来るそう。ぜひ、足を運んでみてはどうだろうか。(珠)



一緒にお茶を 楽しみませんか



高校生活最後 有終の美を飾る

意識しすぎずに気持ちを冷静にコントロールすること、そして自分の力を信じていることが試合の勝利につながることを実感しました」と話した。最後に錦城生に向けて「囲碁は、一度熱中すると抜け出せないくらい奥が深いゲームなのでぜひ調べてみてほしいです」と話した。

一射入魂の気持ちで挑戦

9月3日(土)、4日(日)に開催された第41回関東高等学校水越選手権大会に出場した。水越さんは先月、8月25日(木)、26日(金)に16人が参加した東京都選抜18位入賞の成績を収め、東京都代表として今回の大会への切符を掴んだ。「関東大会へ行くことのできなかった仲間、皆さんの期待に応えることが出来るように頑張りたいです」と語る。錦城生に対して「今回は沢山の応援をありがとうございました。これからも日々、弓道部の仲間たちと練習を重ね、皆さんの期待に応えることが出来るように頑張りたいです」と語り、弓道部の応援をよろしくお願ひします」と締めくくった。(桂)



大会のレベルを感じる 貴重な経験でした

東京総文特集 想いのこもったマドレーヌ

ときよう総文新聞部門の会場でマドレーヌを販売する高校生がいた。販売していたのは都立葛飾ろう学校の生徒である福田実司さん。7月ごろに大会サイドから声がかかり、出店が決定したという。当日はプレーン、抹茶味を各100袋程度用意していた。売り上げも上々で、取材時には残り5袋ほどになっていた。実際に購入し、食べてみた。気になるマドレーヌは1袋2個入り、抹茶味で100円というとても手頃なお値段で販売していた。マドレーヌを買う際には店員さんが優しい笑顔で微笑み、「ありがとう」と手話で挨拶してくれる。マドレーヌを買った人にお話を聞いてみると「香ばしさと、ほどよい甘さの上に抹茶の奥深い風味がして、とても美味しかったです」と答えてくれた。1袋2個入りと少し量が多いように感じるかもしれないが、マドレーヌ1つのサイズがとても小さいのでぺろりと一口で食べることができ、胃に負担にならず2つ余裕で食べられる。また、1袋2個入りということで友人と分けて食べることができ、実際にマドレーヌを3袋買った編集部員も家に持って帰り、家族皆で食べた。福岡さんによると、毎週金曜日には学校前で季節に合ったお菓子を作って販売しているという。12月には学校でレストランも開かれるそうで「ぜひ来てください!」と笑顔で呼び掛けた。(歩・金)



手作りの温かみを感じる